

## ■地域医療連携室

当室は地域の住民により安全で安心した生活を送っていただくことを理念に掲げ、当院と他の医療機関のやり取りをスムーズにすること、ならびに南房総地域における医療・福祉・介護にかかわるネットワークの改善とその有効活用を目標としている。現在の業務における重点項目は、当院と他医療機関との関係性の構築である。当院が率先してコミュニケーションの改善を図り、他医療機関との「信頼関係」を構築することが重要と考えている。

### 1. 2021 年度目標

『顔の見える関係を軸にしたコミュニケーションの促進と、それを支えるネットワークの構築』

- 1) 行政機関・医療機関等との交流をし、良好な関係性を維持する
- 2) 当院と他院との橋渡しをスムーズにする
- 3) 地域の医療・看護・介護従事者が主体的に学ぶ機会を提供する

### 2. 2020 年度目標の評価

- 1) 『地域医療連携室の組織づくりをする』について

2021年3月より、クリニック・救急に来院された紹介状患者さまの返書・来院報告・入院報告業務を、それぞれクリニック医事課・病院医事課に移譲し、連携室として行うべき他の医療機関からの電話問い合わせなどに対して、迅速かつ丁寧に対応できるよう、業務改善を行った。

- 2) 『当院と他院との橋渡しをスムーズにする』について

COVID-19の為、連携医療機関への訪問は思う様に行えなかったが、2施設とオンライン訪問を試みた。封筒・送付文書それぞれに宛名を記載していたが、窓付きの封筒を用い、送付文書のみに記載する事とし、作成・確認業務の簡易化を図り、より間違いなく送付できるように試みた。

- 3) 『地域連携（非連携）医療機関等との交流をし、良好な関係性を維持する』について

亀田ニュースやかめだより等、当院の情報を発信し、関係性を保った。

- 4) 『基幹病院として、地域で提供される医療の質の維持・向上に貢献する』について

看護師向けのがん看護勉強会を開催した。会場を当院として外部医療機関からの参加もあった。またCOVID-19の為、例年の様な地域医療機関での勉強会は断念した。代わりに、地域の医療機関を対象としてオンライン形式での勉強会を開催した。

### 3. 業務紹介

- 1) 全体管理 ①地域医療連携室の体制作り ②市民や地域からの要望を元に関係各所の改善を実施 ③活動状況分析と新たな問題点改善の実施 ④「亀田・地域・患者さま」のメリットや明確な評価指標の構築
- 2) 交流・連携 ①内部・医療福祉施設・市民・行政関係者との交流検討 ②地域医療機関への訪問
- 3) 内部整備 ①ベッドコントロール情報管理 ②紹介状返書内容の充実
- 4) 情報化 ①地域における医療・介護・福祉連携の一本化 ②地域連携ツールを用いた情報共有 ③HP・office365内の「地域医療連携情報」の整備 ④「地域医療連携室だより」の充実

- 5) 教育 ①地域との勉強会（対面・Web）②講演会・交流会の充実

#### 4. 構成員

疼痛・緩和ケア科の蔵本浩一医長を室長とし、診療部外科の草薙洋主任部長、事務スタッフ6で活動している。3月からは、看護部 杉田師長が地域医療連携室副室長を兼務し、地域連携を更に強化する為活動している。

地域医療連携室会議は、診療部、看護部、薬剤師、MSW、亀田医療大学、事務スタッフ合わせて19名が意見を出し合い情報共有しながら協業している。

今までの実績を基に、これまで以上に地域とも連携を深めていきたいと考えている。

#### 5. 年間活動内容と実績

##### 1) 「医療機関連携の覚書」締結

2020年度は新規に2施設と覚書の締結をした。閉院した医院が1つあり、83施設と覚書を締結している。

##### 2) 地域医療連携室会議として月1回実施しており、第155回迄終了した。

尚、当会議は、2021年5月より「地域医療連携会議」とし、引き続き実施する。

##### 3) 安房地域・いすみ地域での看護勉強会の実施

###### ア. 安房地域看護勉強会

COVID-19の感染拡大を考慮し、オンライン勉強会を2/26（金）に開催した。「暮らしをととのえ生活にいろどりを～地域包括ケアシステムを意識～」をテーマに、訪問看護センター佐々木真弓師長を講師とし実施した。4施設とつなぎ、9名の参加があった。

###### イ. がん看護実践コース研修

当院にて、がん看護専門看護師が主となり、がん看護実践コース研修を11/30・12/7に開催した。院外施設より5名の参加があった。

##### 4) 地域医療機関と亀田総合病院をつなぐ情報誌「かめだより」の発行

がん地域連携パスだよりを2010年8月創刊して以来、第15号より地域医療連携室だよりと名称を変更し毎月発行している。当院各診療科・他医療機関より地域連携に関する情報を掲載すると共に、当院にて取り組んでいるトピックスや、勉強会のご案内等掲載している。2014年度からは内容をリニューアルし、第45号より年4回発行にして連携を深めていける様、より充実した内容に努めている。今年度で67号まで発行している。

##### 5) 紹介状について

クリニックや救急外来への紹介状持参患者さまは1日平均40件ある。受診報告及び入院報告については2011年度より事務的に御報告通知を郵便で100%返信している。担当医師からの返信率は、電話での催促にて90%を少し超えるまでになった。3月より、紹介状への返書業務については、クリニック及び病院医事課が担当する事となった。

##### 6) 死亡退院報告書について

ご紹介を頂いた患者さまが死亡された場合、郵送してお知らせしている。

担当医師から紹介医療機関へのお返事がされていない場合は、当室より担当医師へ報告書作成の依頼をしている。依頼から1週間以上経過した場合、再度依頼をかけている。3月より医師が返書を作成するのを待つのではなく、まず連携室としてすべての紹介患者さまの死亡報告書を作成し送付する事

とした。

7) 今後も地域医療連携室としての実績を報告することにより連携室の活動指標の見直しを行い、改善の一助にするとともに、得られた情報を院内に向けて発信していきたい。

8) COVID-19 感染拡大を考慮し、他の医療機関への訪問は控えていたが、オンラインで 2 施設と話し合いの場を設けることができた。この実績をもとに 2021 年度も Web 環境下で医療機関との交流の場を設けていきたい。

文責：蔵本浩一